

本 読んでる？

平成28年12月5日(月) #6 牛深高校司書：金子恵里子

「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」

映画「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」公開にあわせて、図書館館内放送限定CD(5分程度)を流します。12月6・7、12・13の4日間限定で13時10分から流します。昼休み、図書館へお越しください。合わせて原作もチェックしてみてください。

1年次「産業社会と人間」



1年次「産業社会と人間」では、『牛深』をテーマにグループで調べ、新聞(広用紙)にまとめました。ハイヤ大橋やハイヤ祭り、方言、漁業、牛深の食などさまざまなテーマについて調べました。

本、インターネット、リーフレット、直接尋ねるなどさまざまな調査方法があります。それぞれの利点を組み合わせて、情報を取捨選択する力もこの3年間でぜひ身につけてほしいと思います。



先生と本 #6 織方愛佳先生

もう十数年前？ 私が高校生活をEnjoy していた頃、今のあなたたちのように『朝読書の時間』などは設けられておらず、課外、朝自習、授業の予習...を朝の時間にこなすことに精一杯でした。学校の図書館で本を借りたことなんて正直あったかな、と思い出してはみるものの、思い出せません。私が唯一、本と向き合う時間といえば授業中。しかも教科書。それも書道の教科書！書道の本なら、どれだけでも眺めていることができました。少なくともその甲斐あって、書道で大学に進学することが決まりました。進路決定後、東京での大学生活ばかりを妄想して、なんとなくの学校生活を続けていた私を見兼ねた担任の先生から1冊の本を薦められました。その本は、分厚くて、文字が小さくて、読書経験が浅すぎる私にとっては、パラパラパラ~とめくった瞬間、最後まで読み終えるなんて不可能だ。という感想を持ったのを今でも鮮明に覚えています。「今から親元を離れて生活するお前には、いろいろ考えさせられる本だと思う。読んでみるといい。」と言われ、分厚い本の表紙をめくり読み始めました。読めば読むほど続きが気になり、読めば読むほど本の世界に引き込まれていき、昼休みや自宅に帰ってからまでも、その本に釘付けになっている自分がそこにはいました。そして、その本に涙までも奪われ、クライマックスでは学校にも関わらず、大号泣したことを忘れもしません。読み終えた瞬間、その本を持って担任の先生の所へ走り、またそこで話をしながら大号泣。東京での大学生活に胸を膨らませてばかりいた私に、親元を離れる前に読んでおいてほうがいいと勧めてくださった担任の先生に、素敵な本と出逢わせてくださったことに感謝しています。その後、その本を忘れることが出来なかった私は、自ら購入し、今でも当時のことを思い出させてくれる大切な1冊になっています。

読書は、人の心を豊かにしてくれるものだと思います。何気に手にした1冊があなたの運命を変えるかもしれません。あなたの考え方、感じ方を変えてくれるかもしれません。

『人』も『本』も出逢いです。みなさんにも、そんな素敵な出逢いが来ますように

追伸、本のタイトルが気になった人はぜひ尋ねてくださいね。図書館にも置いてあります。